

由宇小だより

平成16年 1月 8日 第13号

「新しい年を迎えて」

校長 浦田 敏 明

さあいくよ 朝の光が呼びかける
プチプチと ふきのとうが こたえる
まけずに 大きく歩いてみた
胸いっぱい 一月の風が とびこむ
新年です

穏やかな申年を迎えました。明けましておめでとうございます。

保護者の皆様には、つつがなく新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

さて、いよいよまとめの3学期が始まりました。これまで取り組んできました様々な「学び」をもう一度見直し、その足跡を価値づけ、親子・教師ともども成長を喜び合う時期でもあります。

私たち大人は、目の前の子どもの幸せと、将来の子どもの自立を願わずにはられません。

自立とは、国語辞典では「他の助けや支配なしに自分一人の力で物事を行うこと。ひとりだち。独立。」とあります。だからこそ、小さな頃から甘やかさないで何でも一人でさせるべきだ、として突き放して育てようとする人がいます。

しかし、それは教育の方向が少しずれているように感じます。

子育てにインスタントはありません。手間ひまは当然かかるものなのです。

心理学者の河合隼雄は「自立は依存によって裏づけられている」と言っています。そもそも人間は、誰かに依存せずには生きていくことなどできない。よって、「親が自立的であり、子どもに依存を許すと、子どもはそれを十分に味わった後は、勝手に自立してくれるのである。」と言い切っています。私たちは、このこと

から何を学び取っていくべきでしょうか。

教育には、「愛」が必要です。今年、子どもの成長を願わずにいられない親の愛と、同じ眼差しをもつ教師の専門性を調和させる年にしたいと思います。

私たちは、個に応じた指導を徹底すると同時に、公立小学校の集団のよさを追求しながら精進してまいる所存です。今後ともご支援ご協力を頂きますよう、よろしくお願ひいたします。

2004年 新春スペシャル

「今年の干支 申・猿・さる・サル」

今年の干支（えと）は、十千十二支の組み合わせで甲申（きのえさる）です。

万物が甲（殻）を破り、成長を始めると言われ、また、猿は災難や悪運が「去る」に通じる縁起のよい動物から、この新年の幕開けにふさわしい吉祥縁起の年であると言われていています。

「一富士 二鷹 三なすび」

一月。新しい年になりました。我が国では、昔から夢で吉凶（よい悪い）を判断する習俗がありました。特に、年の初めの初夢には、その中身によって一年の運勢を占う意味が込められていて、昔の人々は縁起のよい初夢をみたいと強く願っていたようです。

「一富士 二鷹 三なすび」

という言葉は、初夢にみると縁起がよく、よいことがあるとされているもののベスト3です。

富士は、「不死」と同じで長生き。鷹は、「高」「貴」と読み方が同じで、立身出

世の意味。なすびは、実をたくさんつけるので、子どもに恵まれる。

富士山は、天高くそびえ立つ。鷹は、鋭いくちばし

と爪で運をつかむ。なすびは、物事を「成す」で成功のこと。

富士山も愛鷹山もどちらも高い山。元禄時代に駿河地方（今の静岡県）で高い値段がついたなすび。三つとも高いもの。

江戸幕府の将軍、徳川家康が住んだ駿河から見ると富士山が最高で、愛鷹山はその次に高い山。それに富士山の麓でとれるなすびは、大変味がよい。ということで、とても運の強かった家康にあやかるうとして、つくられた初夢ベスト3だともいわれています。

この初夢でみたい三つのものから、江戸時代の人々が、何にあこがれ、どんな幸せを求めようとしたのか、その心情をくみ取ることができます。

皆さん。「一年の計は元旦にあり」といわれています。

一月は、今年、そして、将来への希望や目標を考えるのによい機会です。

大きな夢をもち、その実現に向けて一步一步努力を続けていってほしいと願っています。

「自分の夢を見つけてそれを大事に育てましょう」

宇宙から飛来するニュートリノの観測によってノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊さんが若い人たちにに向けて語った言葉です。

小柴さんは「私の研究は、実用という面から見れば100年は役に立たないでしょう」と悠然と構えています。「人類共通の知的財産に貢献した」「世界中のだれもしていないことをするのは楽しい」と満足げです。疑問・興味・好奇心が見させてくれる100年先の夢。まさに人類の財産です。

